



โครงการเผยแพร่ผลงานวิชาการ  
คณะอักษรศาสตร์ จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย  
ลำดับที่ 172



# らくらく タイ語聴き取り練習帳

カノックワン L・片桐・富岡裕



らくらくタイ語聴き取り練習帳

カノックワン L・片桐・富岡裕

タイ語って難しい...全然聴き取れない...。  
それならこのテキストでの聴き取り練習が近道です。  
驚くほどらくらくに習得出来る要素がこんなにも。

日本語母語話者の  
立場・感覚に合った  
文法解説だから  
覚えやすい

日本語学専攻のタイ人  
タイ語学専攻の日本人  
共同プロジェクト

語学クラス  
グループ学習用  
自習用にも使えます

## 本書の特色

4人のタイ人  
専門家による  
実用的な会話CD付

自己紹介・買い物  
レストラン・チケット予約など  
実生活に役立つ場面で  
聴き取り練習が盛りだくさん  
さらに繰り返し練習法で  
しっかり覚えられる

ISBN 978-616-407-272-5



9 786164 072725

ราคา 350 บาท



โครงการเผยแพร่ผลงานวิชาการ  
คณะอักษรศาสตร์ จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย  
ลำดับที่ 172



CTFL  
Center for Thai  
as a Foreign Language

# らくらく タイ語聴き取り練習帳

カノックワン L.片桐・富岡裕





Kanokwan Laohaburanakit Katagiri and Yutaka Tomioka  
らくらくタイ語聴き取り練習帳  
Bangkok: Academic Works Dissemination Project  
Chulalongkorn University, 2018.

304 pages

ISBN: 978-616-407-272-5

Published by           Academic Works Dissemination Project  
                                Faculty of Arts, Chulalongkorn University  
Deputy Dean:         Assistant Professor Pannee Cheewinsiriwat, Ph.D.  
                                Tel. (02) 218 4888

First published August 2011: 500 copies  
Second published January 2018: 500 copies

Audio files and exercises can be downloaded from  
『らくらくタイ語聴き取り練習帳』CD収録音声ファイルのダウンロードはこちら  
<http://www.arts.chula.ac.th/CTFL/ctfl/link.html>

All rights reserved. No part of this publication may be reproduced or transmitted in any form or by any means, electronic or mechanical, including photocopy, recording, or any information retrieval, without written permission from the publisher.

# คำนำ

หนังสือการฟังภาษาไทยสำหรับผู้เรียนชาวญี่ปุ่นเล่มนี้จัดพิมพ์ครั้งแรกเมื่อปี ค.ศ. 2011 ในครั้งนั้นได้รับทุนสนับสนุนจากโครงการศูนย์แห่งความเป็นเลิศทางวิชาการด้านภาษา ภาษาศาสตร์ วรรณคดี คณะอักษรศาสตร์ จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย การจัดพิมพ์ในครั้งนี้เป็นการจัดพิมพ์ครั้งที่ 2 โดยในครั้งนี้ได้รับการสนับสนุนการพิมพ์จากโครงการเผยแพร่ผลงานวิชาการ ฝ่ายวิจัย คณะอักษรศาสตร์ และศูนย์ภาษาไทยในฐานะภาษาต่างประเทศ คณะอักษรศาสตร์ จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย ผู้เขียนมีความยินดีเป็นอย่างยิ่งที่หนังสือเล่มนี้ได้รับการสนับสนุนให้ตีพิมพ์อีกครั้ง

หนังสือเล่มนี้เกิดจากความร่วมมือระหว่างชาวญี่ปุ่นซึ่งเป็นผู้เชี่ยวชาญภาษาไทย และชาวไทยซึ่งเป็นผู้เชี่ยวชาญภาษาญี่ปุ่น ผู้เขียนใช้ความรู้ภาษาไทยในฐานะภาษาแม่และประสบการณ์ในฐานะผู้เรียนภาษาไทยในฐานะภาษาต่างประเทศ รวมทั้งศาสตร์การสอนภาษาต่างประเทศมาใช้ในการสร้างหนังสือเล่มนี้ ผู้เขียนพยายามคัดเลือกคำศัพท์และไวยากรณ์ที่คิดว่าจำเป็นสำหรับผู้เรียนที่ชาวญี่ปุ่นเพื่อนำมาอธิบายในมุมมองของผู้เรียนชาวญี่ปุ่นเท่าที่จะทำได้

ผู้เขียนเชื่อว่าการพัฒนาความสามารถการฟังที่ดีที่สุดคือ การฝึกฟัง หนังสือเล่มนี้จึงสร้างแบบฝึกหัดฟังไว้จำนวนมาก พร้อมกับเสริมคำอธิบายให้เกิดความเข้าใจที่ลึกซึ้งยิ่งขึ้น ผู้อ่านสามารถใช้หนังสือนี้ในฐานะผู้สอนเพื่อสอนภาษาไทยในชั้นเรียน หรือจะใช้นิยามในฐานะผู้เรียนเพื่อฝึกการฟังและเรียนรู้ภาษาไทยด้วยตนเองก็ได้เช่นกัน

ในการจัดทำหนังสือเล่มนี้ ผู้เขียนได้รับความกรุณาจากบุคคลหลายท่าน ขอขอบคุณ อาจารย์วิชัย เพียรนคระห์ชน สำหรับคำแนะนำที่มีประโยชน์ในการจัดทำหนังสือ ขอขอบคุณ คุณณณานิษฐ์ สวนะคุณานนท์ ที่ช่วยตรวจสอบความถูกต้องของการเขียนสัทอักษร ขอขอบคุณ ผู้ช่วยศาสตราจารย์ ดร.จุฬิศพงศ์ จุฬารัตน์ ผู้ช่วยศาสตราจารย์ ดร.ธานีรัตน์ จิตตะศรี อาจารย์ ดร.วิภาส โพธิแพทย์ และ อาจารย์ณภาศรี สุวรรณโชติ ที่กรุณาออกเสียงภาษาไทยสำหรับจัดทำไฟล์เสียงประกอบหนังสือเล่มนี้ ขอขอบคุณ คุณรุ่งอรุณ พัฒนะธเนศ ผู้วาดภาพหน้าปกและภาพประกอบหนังสือ ขอขอบคุณ คุณ Ishihara Atsushi ผู้ออกแบบหน้าปกหนังสือ และขอขอบคุณกรรมการผู้ทรงคุณวุฒิที่อ่านหนังสือเล่มนี้อย่างละเอียด และให้ความคิดเห็นที่เป็นประโยชน์ยิ่งเพื่อใช้ในการแก้ไขปรับปรุงสำหรับการจัดพิมพ์ในครั้งนี้ 2

สุดท้าย ผู้เขียนหวังว่าหนังสือเล่มนี้จะมีประโยชน์ต่อการเรียนการสอนภาษาไทยสำหรับผู้เรียนชาวญี่ปุ่น และศาสตร์การสอนภาษาไทยในฐานะภาษาต่างประเทศไม่มากนักน้อย หากมีข้อบกพร่องประการใด ผู้เขียนขออภัยมา ณ ที่นี้ด้วย

กนกวรรณ เลหาบุรณะกิจ คะตะกิริ  
ยูทาเกะ โทมิโอกะ



# はじめに

この本は、日本人タイ語学習者向けの聴解読本として、チュラーロンコーン大学文学部 THE CENTER OF EXCELLENCE PROGRAM ON LANGUAGE, LINGUISTICS AND LITERATURE からの援助を受け、西暦2011年に初版が刊行されました。今回は、チュラーロンコーン大学文学部 研究支援部研究成果発表プロジェクトおよびチュラーロンコーン大学文学部外国語としてのタイ語 センターからの援助を受け、第2版を刊行することとなりました。再び刊行の支援を受けたことを、心よりお礼申し上げます。

本書は、タイ語を専門とする日本人と、日本語を専門とするタイ人の協力によって生まれました。筆者らは、母語としてのタイ語知識と、外国語としてのタイ語学習経験、さらに外国語教育学の知識を元に本書を執筆しました。日本人タイ語学習者にとって必須と考えられる語彙と文法事項を取り上げ、できる限り日本人学習者の立場になった説明を心がけました。

聴解力の向上に必要なのは、聴き取り練習を重ねることです。本書には、聴き取り練習問題と理解を深めるための説明を多く掲載しています。読者は、タイ語教師の立場で本書を教科書として教室内で利用したり、学習者の立場で本書を聴解練習に用いたりタイ語自習に用いたりすることが可能です。

本書の執筆にあたって、多くの方々からのご協力を賜りました。VICHAI PEINUKACHON 先生には貴重なご助言を頂きました。YANIN SAWANAKUNANON さんには発音記号の校正作業を手伝って頂きました。DR. JULISPONG CHULARATANA 先生、DR. THANEERAT JATUTASRI先生、DR. WIPAS PHOPAT先生、NAPASRI SUWANAJOTE 先生には、付属の音声ファイルに用いるタイ語音声を録音して頂きました。RUANGAROON PATTANATHANES さんには表紙と挿絵を描いて頂きました。石原敦志さんには表紙のデザインをして頂きました。そして専門委員の皆様には本書を精査して頂くとともに、第2版改訂にあたって貴重なご意見を頂きました。厚く御礼を申し上げます。

本書が日本人タイ語学習者および外国語としてのタイ語教育にとって少しでもお役に立てることを願っております。本書の文責は筆者らが負うものであり、本書の内容に至らぬ点がありましたら、お詫びを申し上げます。

Kanokwan Laohaburanakit Katagiri  
Yutaka Tomioka





#### 表紙について

「タイ語を聴く力を養ってほしい」という本書の意図に合わせ、Rungaroon Pattanathanes さんの挿絵をベースに、見えないはずの音波が見える、そんなイメージでまとめてみました。日本人にとっては、タイ語は聞き取りが難しいというイメージがあるかもしれません。しかし、そんな方にタイ語に親しみをもち、覚えてほしいという意味を込めています。きっと本書を終えるころには、「聴く」というテーマで、このデザインの意味したことをきっと分かってくださることと信じております。

まずは、「最初にこの本を手にするきっかけが、この表紙だった」という方が少しでもいることを祈って。

表紙デザイン 石原敦志

# 目次

本書の使い方	X
タイ語について	XV
第1課	
自己紹介 <i>né? nam tua</i>	1
文法	18
コラム：タイ人のニックネーム「チューレン」‘ <i>chûwlên</i> ’	20
第2課	
いくらですか <i>thâwrày khráp/khá?</i>	21
文法	33
コラム：「テニス」が「デンニツ（ト）」になるわけ	40
第3課	
何名様ですか？ <i>kîi khon khráp/khá?</i>	41
文法	58
コラム：タイ人は年齢を知りたがる	65
第4課	
タイ語で何と言いますか？ <i>phaasăa thay rîak wâa ?aray khráp/khá?</i>	67
文法	84
コラム：ピー・ノーンは兄弟姉妹	89
第5課	
第1課～第4課の復習	91
コラム：I love you をタイ語で	103
第6課	
え？ 何ですか？ <i>?aray ná? khráp/khá?</i>	105
文法	122
コラム：傷ついても果敢にタイ語を使いましょう	128

第7課	
バスに乗ったことがありますか？ <i>khəəy khûn rót mee mǎy</i>	129
文法	145
コラム：あなたはどこに泊まっていますか？	154
第8課	
タイはどうですか？ <i>muəŋ thay pen ɲay</i>	155
文法	177
コラム：路線バスに乗ったことはありますか？	187
第9課	
わあ、おいしそう <i>ʔôhǎo nâa kin caŋ ləəy</i>	189
文法	210
コラム：続・路線バスに乗ったことはありますか？	217
第10課	
第6課～第9課の復習	219
解答の例	227
会話のスク립ト（本文に載っていないもの）	248
参考文献	267
INDEX	268
執筆者紹介	274

# 本書の 使い方

## 本書の構成

本書は全10課で構成されています。第5課は第1課～第4課の復習、第10課は第6課～第9課の復習となっていますので、文法説明やコラムはありません。巻末には、本文に載っていないがCDには収録されているスクリプト、練習問題の回答、索引があります。

## 課の構成

1つの課は、本文、文法、コラムで構成されています。第5課と第10課は復習課ですので、文法はありません。

本文は単語、問題、会話、タスクで構成されています。

**単語** 全ての単語を頭に入れてから会話に臨む必要は全くありません。

### 単語

sawàtdii	สวัสดี	おはよう、こんにちは、 こんばんは	
wánídaa	วนิดา	ワニダー（女性の名前）	
pen	เป็น	☞ 文法1)	
culaa	จุฬา	チュラ、チュラー （チュラーロンコーン大学の略称）	
ʔaacaan culaa	อาจารย์จุฬา	チュラの先生	2
phǒm	ผม	私（話し手＝男性）	⋮
díchǎn, dichán	ดิฉัน	私（話し手＝女性）	⋮
1 khráp	ครับ	丁寧さを表す終助詞	⋮
⋮ yindii thii dǎay	ยินดีที่ได้	はじめまして	⋮
4 rúcàk khráp/khâ?	รู้จักครับ/ค่ะ		⋮
⋮ 動詞 + dǎay	動詞 + ได้	☞ 文法6)	3
⋮ 動詞 + dǎay mǎy/máy	動詞 + ได้ไหม	☞ 文法6)	⋮
mǎy/máy khráp/khâ?	ไหมครับ/ค่ะ	☞ 文法1)	⋮
dǎay khráp/khâ?	ได้ครับ/ค่ะ	いいです。	⋮
		⚠ 許可、了解という意味の「いい」。	

- 1 フレーズをひとかたまりとして紹介している場合もあります
- 2 タイ文字既習者向けにタイ文字も併記してあります。
- 3 同じ課の文法説明の該当番号を参照して下さい。その都度、文法説明と単語を行ったりきたりする必要はありません。まずは文脈から意味を推測するようなつもりで、会話に進んで構いません。
- 4 学校で教わったり、辞書に発音記号で載ったりしている発音に従って記載しています。しかし中には、辞書通りの発音と異なる発音が一般的に通用していることもあります。そのような語は、辞書通りの発音と実際にタイ人が使う発音を併記しています。（記号の見方は発音記号と記号の見方のページを参照して下さい。）

問題

この後続く会話では、どのようなことに気をつけながら会話を聞いたら良いのか、ということ意識してもらうために、問題を出してあります。

問題

会話を聞く前に、質問を見てみましょう。質問に答えるためには、どの部分を聞き取れば良いか、気をつけながら会話を聞いてみて下さい。

- 1) 男の人の名前は何ですか。



会話

本書の会話文には以下のような特徴があります。

会話

2

1

語学の学習者にとって、「教科書で習った通りの発音で話しても、全然通じない!」とか、「実際の会話と発音が全然違って聞き取れない!」という経験はよくあることです。「会話」の項目では、収録されている会話の実際の音声に近い状態で、発音を記載しています。